

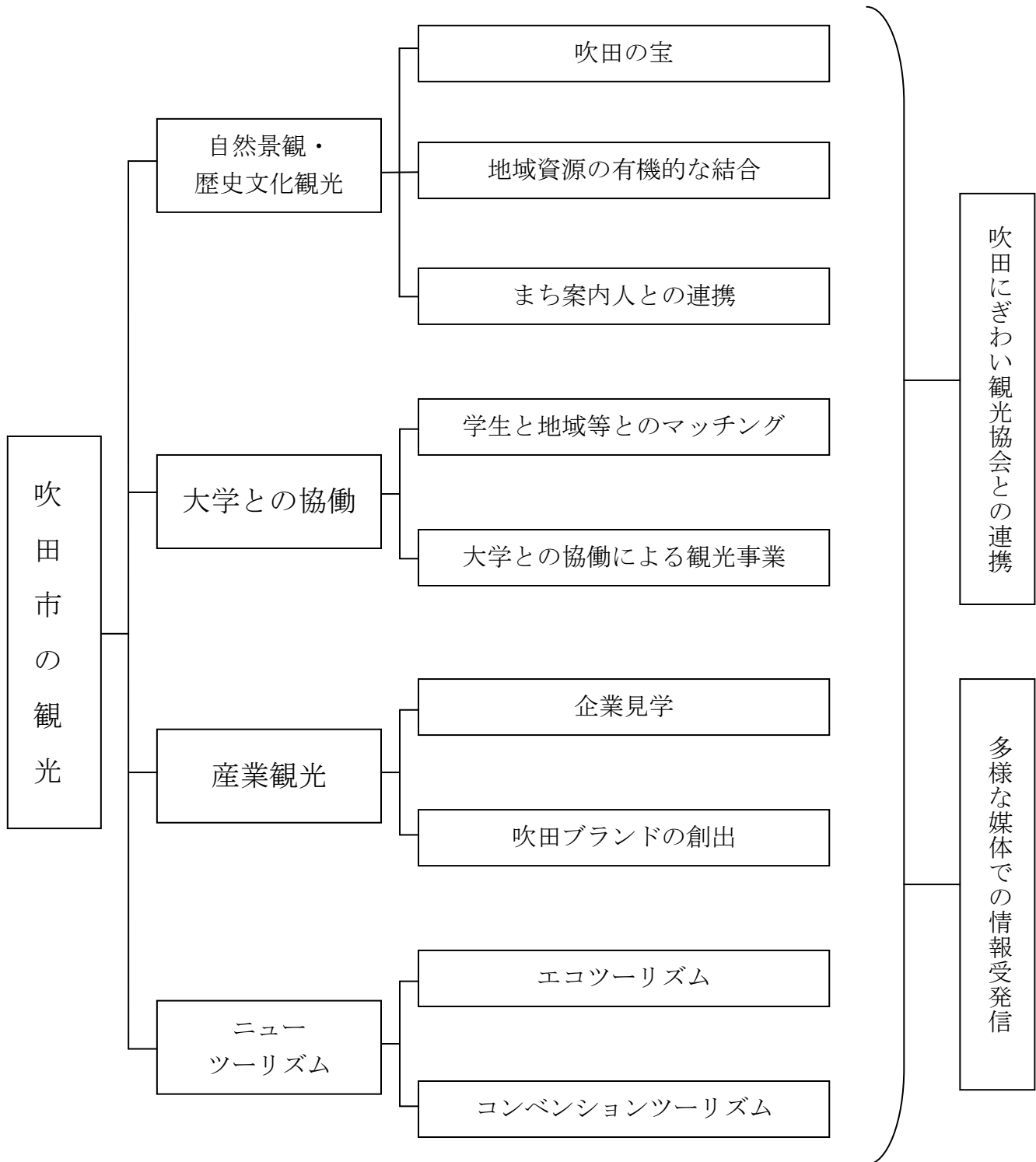
## 吹田市観光ビジョン

・・・都市型観光を目指して・・・

- 1 ビジョン策定にあたって
  - (1) 目的
  - (2) 国、府の動向
  - (3) 吹田市の現状と課題
- 2 吹田市における観光施策
  - (1) 自然景観・歴史文化観光
    - ア 吹田の宝
    - イ 地域資源の有機的な結合
    - ウ まち案内人との連携
  - (2) 大学との協働
    - ア 学生と地域等とのマッチング
    - イ 大学との協働による観光事業
  - (3) 産業観光
    - ア 企業見学
    - イ 吹田ブランドの創出
  - (4) ニューツーリズム
    - ア エコツーリズム（「環境世界都市すいた」の発信）
    - イ コンベンションツーリズム
- 3 一般社団法人吹田にぎわい観光協会との連携
- 4 多様な媒体での情報受発信

市民の市民による市民のための観光

基本的な方向性



## 1 ビジョン策定に当たって

観光の語源は、中国の易経にある「国の光を<sup>み</sup>観るは、王の賓たるに<sup>よろ</sup>利し」と言われている。それぞれの地域の優れたものや特性を観たり、示したりすることによって多くの人々の交流を図ることは、為政者の重要な努めだと教えているものであり、その後、大正年間に「tourism」の訳語として用いられるようになった。

これまで日本の地域振興策は、「均衡ある発展」や「格差是正」の名の下に、全国画一型ともいえる政策をとってきた。そのため、各地方に、長い時間をかけて醸成されてきた地域色は、効率優先の経済発展とともに次第に失われ、その持てる個性や魅力も色あせていった。

地方分権が本格化する今後の観光施策は、地域固有の自然や歴史・文化、産業等を存分に生かした地域資源活用型へと転換を図る必要がある。

今後ますます人口減少と高齢化が進展し、国・地方自治体の財政難が深刻化の度合いを増すことが見込まれる中、地域を再生し、その活力を取り戻すために有効な手だての一つが、旅行者等の交流人口を拡大し、交流経済を活発化させていくことである。その際、地域への興味・関心をかき立て、多くの人を呼び込む決め手となるのは、魅力ある地域（人・物・自然）の存在であろう。

観光は極めて裾野の広い産業であり、国内外から多くの人を呼び込むことによる交流人口の拡大がもたらす経済波及効果や地域活性化効果が大きいことは、わが国でも広く認識されるようになってきている。ヒト・モノ・カネ・情報の移動の距離、時間が大幅に短縮され、地球レベルのさまざまな場面での交流が進む大交流時代の幕開けを迎えた今、観光は21世紀のリーディング産業として多くの注目を集めている。

### (1) 策定の目的

まちの将来像を「人が輝き、感動あふれる美しい都市（まち）すいた」と定めた吹田市第3次総合計画の第7章第2部基本計画第1編部門計画「活力あふれにぎわいのあるまちづくり」に基づく産業振興施策を進めていく際、目標とするにぎわいのあるまちを創出するためには、観光施策の充実を欠かすことができない。さらに、産業の振興に関する基本理念及び施策の方針を定めている吹田市産業振興条例にも、産業施策の方針として観光事業の推進がうたわれている。

そこで、地域の活性化を図るための観光を目指し、その特性を生かした「市民の市民よる市民のための観光」を実現するため、本市における観光

施策の今後の方向を示すものとして、ここに「吹田市観光ビジョン」を策定する。

なお、本ビジョンは、国や府の動向、市の情勢等を勘案し、必要に応じて見直しを行うものとする。

## (2) 国、府の施策

平成 19 年（2007 年）1 月、「観光立国推進基本法」が施行された。これは従来の「観光基本法」を全面改正し、二十一世紀にふさわしい国家戦略としての「観光立国」の位置付けを明確にしたものである。

この基本法には、施策の基本理念として、①活力に満ちた地域社会の持続可能な発展、②国民観光の促進、③国際相互理解の増進、④国・地方公共団体・住民・事業者等による相互の連携、を通じて「観光立国」の実現を図ることがうたわれている。

引き続いて、同年 6 月には、この基本法に基づき、観光立国の実現に関するマスタープランとして「観光立国推進基本計画」が策定されている。この基本計画には、5 年間という計画期間のうちに達成すべき事柄として、訪日外国人旅行者数等の具体的目標が定められている。

このような流れの中、観光立国の実現のために、国全体として、官民を挙げて観光立国の実現に取り組む体制が必要となってきた。とりわけ、①国を挙げて観光立国を推進することを発信するとともに観光交流拡大に関する外国政府との交渉を効果的に行うこと、②観光立国に関する数値目標の実現にリーダーシップを発揮して関係省庁への調整・働きかけを強力に行うこと、③政府が一体となって「住んでよし、訪れてよしの国づくり」に取り組むことを発信するとともに地方公共団体・民間の観光地づくりの取組を強力に支援すること、が必要であることから、平成 20 年（2008 年）10 月 1 日、国土交通省に観光庁が設置され、観光立国の確立に向けた各種の施策を総合的かつ計画的に推進していくこととなった。

また、大阪府は、同年 5 月、「大阪ミュージアム構想」を発表した。これは、地域住民が主体となって、大阪にある魅力的な資源を発掘又は再発見し、磨き、輝かせることで「大阪全体がミュージアム」という「まちの空気感」、「まちの顔」を形成し、大阪の魅力をさらに高め、府内外へ情報発信するというものである。市町村にかかわる取組としては、「地域のコンセプト作り」、「展示品の登録提案」、さらに、ふるさと納税や国・府の補助・助成制度を活用した「磨き、際立たせる取り組みの実施」が求められている。本構想に係るミュージアム展示品として、本市では、旧西尾家住宅等が挙げられている。

### (3) 吹田市の現状と課題

大阪の近郊都市として発展してきた本市は、広域交通の利便性に優れ、北部には日本万国博覧会記念公園の太陽の塔や千里ニュータウンの四季折々のすばらしい景観を楽しめる場所があり、南部には古くから伝わる伝統文化や史跡・旧跡などが数多く残されている。また、国立循環器病研究センターや大阪大学附属病院など世界でも最先端の高度医療施設が立地するほか、世界に誇る技術を持つ有数の企業が存在する。

ただ、本市におけるまちの成り立ちや立地を考えた場合、それぞれの地域が異なる発展を遂げており、「核」が見当たらないということが出来る。同様に、観光の拠点となるべきものは多数残されてきているが、それらが点在しており、有機的に結びつけることができていない。

さらに、知的財産である大学や研究機関が多く立地しており、住民に対する学生数の割合は全国2位となっている。それゆえ、吹田の観光を考える場合、大学・研究機関とそれらにかかわる人たちの力が生かされていなければならないが、現状はそうなっているとはいえない。もちろん、大学・研究機関を観光要素と捉える場合であっても、それは、あくまでも「文化的な」観光要素であることは言を俟たない。

## 2 本市の観光施策

本市は、「市民の市民による市民のための観光」を目指し、種々の観光施策を推進している。これは、まち案内事業をはじめとする行政としての取組によってまちの新たな魅力の発見に努めつつ、本市における多様な主体の活動の中から、多くの人を呼び込み、まちのにぎわいにつながるものが生まれてくることを目指している。

ただし、本市には、従来の「観光」という言葉からイメージされるような観光地は存在しない。そこで本市の観光振興には、地域経済を活性化させることにとどまらず、都市における生活環境の維持やまちのイメージづくりなど、「まちづくり」の一環として捉える視点が求められることとなる。

本市においては、「快適ライブタウンの創生をめざして」を基本理念とし、地域主導で「自然景観・歴史文化観光」、「産業観光」、「ニューツーリズム」等を融合させた都市型観光を推進していくことを目指すものである。

そこで肝要となるのは、これまで定着してきた「ビールと操車場のまち」、「千里ニュータウンと万博のまち」等のイメージを生かしたストーリー性のある観光施策を推進していくことである。これらのイメージの明確化やそれをもとにした観光資源の発信は、本市の個性・魅力となり、他市との差別化が図られ、都市間競争において優位に立つことができる重要な要素となる。

さらに、これらのイメージをベースに提案された魅力ある観光商品を積極的に国内外に発信することは、諸外国からの誘客（インバウンド）を促進する基礎となると考えることができる。

その際、行政（官）では取り組みにくい事業もあると考えられることから、平成22年（2010年）4月に設立された「吹田にぎわい観光協会（民）」との役割分担のもと、緊密な連携をもって施策を進めていく。

#### （1）自然景観・歴史文化観光

観光での地域活性化を考えるにあたっては、来訪者の消費等によってもたらされる経済的効果にとどまらず、長期的な視点をもって、産業振興やまちづくりといった将来的な地域活性化への道筋を明らかにしていくことが求められる。

また、地域の魅力を掘り起こそうとする取組を一過性で終わらせないためには、その多様な方向性を認め、将来への展望に至る道筋の中で、事業の精査と優先順位を勘案しながら、長期的な視点に立って検討していく。

ただし、その際、来訪者を数多く誘致することだけを目的としたマストツーリズムに陥ることは、地域の魅力を守り育ててきた生活者の思いから離れ、来訪の動機ともなっている地域資源の「価値」を損ないかねない。地域の「誇り」をベースにした将来展望を事業に参画する関係者が共有することによって、持続的な推進が可能となる。

##### <自然景観観光資源>

- ・日本万国博覧会記念公園内の日本庭園や自然文化園
- ・紫金山公園
- ・三色彩道
- ・旧蔵人のまちなみ
- ・大同生命ビル（吹田市都市景観賞受賞）
- ・アメニティ江坂（吹田市都市景観賞受賞）
- ・千里ぎんなん通りのイチョウ並木
- ・千里さくら通りの桜並木

##### <歴史文化観光資源>

- ・太陽の塔
- ・吹田の渡
- ・旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）
- ・旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）

- ・浜屋敷（吹田歴史文化まちづくりセンター）
- ・国立民族学博物館など文化学術施設
- ・5大学・研究機関（大阪大学・関西大学・大阪学院大学・千里金蘭大学・国立民族学博物館）
- ・ガンバ大阪
- ・「みつめあう愛」（岡本太郎氏の陶壁画。ダスキン本社ビル2階）
- ・リオちゃん（岡本太郎デザインの看板）

#### ア 吹田の宝

本市には、万博記念公園や太陽の塔、旧西尾家住宅・旧中西家住宅・浜屋敷をはじめとする、本市の歴史を象徴する観光資源のほか、地方の時代映像祭のような他市にも誇れるイベントなどの「吹田の宝」ともいえるものがある。これらは、その価値が今日まで受け継がれ、現在も年間を通して多くの来訪者を迎え入れている。これらの魅力にさらに磨きをかけ、本市観光の目玉として積極的に市内外に発信していく。

#### イ 地域資源の有機的な結合

地域資源は、生活空間の一部として慣れ親しんだ住民にとっては、殊更目新しくないものであっても、地域外からの来訪者にとっては、魅力的な観光目的となり得る。市内に点在するさまざまな観光資源をルート化することにより、個々の対象の魅力を相乗的に引き立てることができると考えられる。そのことにより、来訪者にも本市の回遊性に富んだ楽しみ方を提案することができるようになるとともに、市民自身が快適な居住空間にあらためて注目することで、新たな来訪者を増やす機運が生まれるきっかけともなる。地域資源の保存体制を整え、多くの人々に公開できる機会をつくることにより、地域資源は一層魅力的なものとなる。

#### ウ まち案内人との連携

観光は、多く人と人との触れ合いで成り立っており、来訪者を迎えるにあたっては、多様でなおかつ優秀な人材を充実させることが、生命線である。本市においては、来訪者の受け入れ体制として、観光資源の案内・説明などを支援する地元住民で組織されたボランティアグループ「吹田まち案内人」の存在がある。

今後も、団塊の世代からは多くの退職者が生じ、これまで会社が自己

表現の主な場所であった人々が、地域社会に活動の場を移すこととなる。これまで、なかなか参加することがかなわなかった地域の諸活動に、あらためて目を向ける時間と機会が訪れる。さまざまな人生経験を生かし、地域に根ざした活動を展開することができるようになるのである。

地域観光の重要な担い手の一翼である「吹田まち案内人」が活動しやすい環境を整備し、事業に参画する関係者が地域の「誇り」をベースにした将来展望を共有することによる持続的な取り組みが可能となるように支援をする。

## (2) 大学との協働

本市は、大阪大学、関西大学、大阪学院大学、千里金蘭大学、国立民族学博物館と、5大学・研究機関が立地し、全国でも有数の「大学のあるまち」といえる。この、地域に特有の財産である知の集積を、他市にはない文化的な観光要素として位置付け、大学が持つ豊富な情報・技術・人材・施設などを生かし、市民・事業者・大学・行政が有機的に結びつくことにより、市内外を問わず多様な人の交流が可能になる。

### ア 学生と地域等とのマッチング

観光という新たな事業分野を充実させていくには、学生の推進力、行動力だけでなく、新鮮な発想を生むブレインとしての力の活用を考える必要がある。

学生がサークル活動やボランティア活動等を行うにあたって、企画や出演等での参加の機会を求めていることは決して少なくない。また、大小に関わらず、種々のイベントを開催する諸団体、企業が、マンパワーとしてだけでなく、若い発想、独自の人脈等を活かした新たなイベントの企画者、出演者としての学生の参画を求めている場面も珍しくない。この両者をマッチングさせる仕組みを構築することは、個のイベント単位で双方の要望を満足させ、地域への集客が期待されるだけでなく、学生にとっては社会参加・地域参加の機会となり、地域への愛着や誇りが醸成されることにもつながる。また、観光、イベント、まちづくりの企画等に興味のある学生に、実際に考え、行動する機会を与えることになり、産学官が連携した形での効率的な人材育成の1つとも捉えることができる。

### イ 大学との協働による観光事業

近年、観光に対するニーズが多様化する中で「学ぶ」ということが



注目を集めている。このニーズに対応するにあたって、本市では大学を抜きに考えることはできない。

大学にはそれぞれ独自の、蓄積された情報や学術資料、施設、コンテンツがある。なかでも各大学が持つ博物館等の施設や、多様なジャンルに広がる公開講座は組合せ方により様々なニーズを満たすことのできる文化的な観光要素になりうると考えられる。

そこで、平成20年（2008年）10月に開設された「生涯学習吹田市民大学」や、吹田にぎわい観光協会が運用管理する「吹田市5大学・研究機関生涯学習ナビ」は、生涯学習情報を集約・発信するツールとして重要な役割を担っているといえる。

コンテンツや施設の情報を個々に発信するだけでなく、有機的なつながりをコーディネートし、「学ぶ」という観光のニーズにこたえることのできる具体的事業を展開することは、市内外から多くの人を呼び込むという効果はもちろんのこと、「大学のあるまち」を体現することによって、吹田市が「5大学とともに歩むまち」としてのアイデンティティとブランド力を高めることにつながっていくものと考えられる。

### （3）産業観光の促進

「産業観光」は、従来の有名な名所・旧跡を見るだけの狭義の観光にとどまらず、各地域に旧来からあった歴史的・文化的価値のある産業文化財や工場・工房及び産業製品、コンテンツなどのソフト資源を観光資源とする新しい観光形態であり、それらの価値や意味、おもしろさにふれることにより人的交流を促進し、まちの活性に生かしていくものである。

市内に数多く立地する企業の工業生産現場及び産業製品等をも観光資源と捉え、それらの製造現場を体験し、学ぶことで、人的交流を促す観光としての「産業観光」を確立するとともにまちのイメージを明確化することが重要である。

#### ア 企業見学

企業見学の中でも工場見学では、伝統工芸品の製造現場や最先端技術の見学、実際の作業体験から、その産業の魅力を身近に感じることができる。従来の観光の「見る」という要素に、「体験する」「学習する」という要素が加わることで、観光に対する新たなニーズを満たすことができる。工場見学のほかにも、会社や企業が開設する「企業ミュージアム」を交流や交歓の場として活用し、地域産業の向上・振興を目指す。

アサヒビールが、「先人の碑・迎賓館・工場見学」と吹田の歴史めぐりを開催し、多くの人を訪れている。これは、企業自身にとっても自社及び自社製品の理解を深めてもらうPRの場となり、ビジネスチャンスにもなっているといえる。

本市には他にも多くの企業や工場がある。その中から産業観光資源となりえるものを見つけ出し、産業観光資源として位置付け、企業ミュージアムや工場見学の拡大・発展の支援をしていく。

#### イ 吹田ブランドの創出

地域ブランドの創出は、市が地域資源活用型の観光を進めていく上で、他市との差別化を図り、優位性を保つために大変重要な意味を持っている。そこで、地域資源の掘り起こしを行い、その価値を具体化する商品・サービス等を創出する活動を支援し、その中で「吹田ブランド」となりうるものを広く全国に発信する。さらに、他の観光資源と連携させて、吹田を訪れないと味わえなかったり、経験できないような仕組みを構築することで、本市のブランド力や知名度の向上を図る。

#### (4) ニューツーリズム

近年、観光に対するニーズは多様化・高度化しており、これまでの団体仕様で単に周遊し、見物するだけの観光ではなく、個人が持つ特別なテーマや興味、関心、目的に合わせた観光が求められてきている。そこで注目されているのがニューツーリズムである。

ニューツーリズムとは、従来の物見遊山的な観光とは違い、テーマ性が強く、人や自然とのふれあいなど体験的要素を取り入れた新しいタイプの観光を指す。ニューツーリズムを推進するには、旅行会社主導でなく地域主導で、地域の観光資源の特性、テーマ性、専門性を掘り下げ、活用することが必要となる。その意味でニューツーリズムは地域活性化につながる新しい旅行の仕組みを指すとも考えられる。

先述のとおり、5大学・研究機関が立地する本市は、日本有数の「大学のあるまち」と言える。また、最先端の医療機器、医療技術を備えた高度医療機関も多く立地し、「最先端医療の集積都市」でもある。さらに、東部拠点においては、環境先進性と先端医療機能が融合した、「エコメディカルシティの創生」をコンセプトに置いた新たなまちづくりが進められている。

これらのまちの特性を観光資源と位置づけ、各関係機関との連携を深めることによって、個性と魅力のある観光施策を推進していく。

#### ア エコツーリズム（「環境世界都市すいた」の発信）

従来の観光形態として一般的であったマスツーリズムは、団体行動が中心であり、旅行者や観光バス等の過度の集中は自然環境の劣化や生態系の破壊などを引き起こした。

その反省から、近年、自然資源を中心に生活文化、歴史など地域の固有資源を生かしながら持続的に利用していくことを前提とする「エコツーリズム」が注目されている。

エコツーリズムの考え方にに基づき、地球温暖化対策への取組や、地域における貴重な動植物の生態、生活文化・歴史などをガイドから学びながら、それらの意識を高めることができるようなエコツアーを推進することで、地域資源に対する地元住民の理解を深めつつ、地域の誇りを醸成することにもつながっていくと考えられる。さらに、持続可能な低炭素都市モデルである「環境世界都市すいた」を観光の面からも発信することができる。

#### イ コンベンションツーリズム

コンベンションとは、従来は会議、展示会、大会という狭義の意味で捉えられてきたが、近年は、スポーツ大会、興業イベント等も総称し、滞在型の交流行為として広義に捉えられている。

コンベンションは従来の観光に比べ、消費効果が大きいとされている上に、地域から来訪者に向けて、積極的・直接的に地域文化・産業等の特長をPRすることができる機会として注目されている。さらに、集まってくる各分野の先進者・スペシャリストと、開催地域の諸団体・企業家等との交流のきっかけともなり、地域の経済的・文化的基盤を向上させる働きもある。

ここでいうコンベンションツーリズムとは、コンベンションの誘致を促進することで、観光のきっかけや市のPRの場を設け、リピーターとしての観光客を誘致するというものである。

本市には、国立循環器病研究センターや大阪大学附属病院といった海外からも注目される高度医療施設が充実しているだけでなく、国立民族学博物館や、大阪大学、関西大学といった学術機関も多く立地している。そこで、これらとの連携を十分に整え、魅力的なコンベンション会場の確保を図る。また、市内の多様な観光資源と組み合わせ、アフターコンベンションの充実を図ることで市の魅力をPRし、観光やコンベンションのリピーター、さらには企業・産業の誘致をも促進し、地域の活性化を図る。

#### 4 一般社団法人吹田にぎわい観光協会との連携

まちづくりに関わる主体の一つとしての「官」には、施策の立案にあたって、その中立性・公平性を担保することが求められるほか、意思決定に関わる特有の手續等に時間を要する場合があることは否めない。

また、行政主導の観光振興事業は、営利よりも公的・文化的側面に重きが置かれた場合、民間事業者の活力を生かした地域経済の活性化という重要な目的を達成できなくなる懸念が強い。さらに、近年の行財政改革の中で行政事務の見直しや外部委託が進む中、行政によるイベントの開催だけでなく、市民主導で開催されるイベントへの支援についても見直しが必要となっている。

そこで、近年では、観光振興の観点から地域経済の活性化を図るにあたり、迅速かつ柔軟な対応が可能となるよう、その実施については、従来の行政主導から、民間組織を主体とする推進が志向されるようになってきている。民間主導ですすめていくことで、事業の一層の活性化や広域からの集客につながると考えられる事業もある。

その上で、本市・商工会議所をはじめとする市内事業者、施設等との議論の帰結として、地域事業者のエネルギーや自由な発想を取り入れた観光振興事業を具体的に推進していくための母体として観光資源の開発、観光イベントの企画・実施等を手がけ、吹田市の観光振興とともに市民生活の向上に寄与することを目的として、平成 22 年（2010 年）4 月 1 日「一般社団法人吹田にぎわい観光協会」が設立された。

具体的な観光事業の企画・実施を担う吹田にぎわい観光協会と、各主体が自主的に取り組む観光事業を支援する市はそれぞれの役割に応じ、互いの存在を補完し合う緊密な連携の下に観光振興事業を推進し、地域経済の活性化を図っていく。

#### 5 多様な媒体での情報受発信

これまで、まち歩きのための観光コースを設定した観光マップ「あろく吹田」を幅広く活用し、市内の観光施設・見所を発信してきた。そして、さらに魅力ある地域資源の発掘に努め、地域の特色を生かしながら広く市民に情報提供できるよう、観光マップや観光ガイドブックをはじめ、多様な視点からさまざまな地図や冊子の作成を行ってきた。また、観光情報の受発信の拠点として JR 吹田駅前に観光センターを開設し、ソフト・ハード両面から充実を図ってきた。

これまでの取組の中でも、平成 22 年（2010 年）に開設された「吹田市観光ウェブ」は、これまで蓄積されてきた本市の観光情報だけでなく、最新

の情報や身近な情報を市内外の人々にきめ細かに発信するツールとして大変重要な役割を持つと考えられるため、今後さらに内容の充実を図っていく。

さらに、本市が行う画一的な情報発信にとどまらず、吹田にぎわい観光協会、SUTV、FM 千里、阪急電鉄・JR などさまざまな媒体との情報共有・連携を強化し、吹田の新しいイメージや旬の情報などを積極的に発信することにより、来訪者の増加を図る。